

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

新潟県

地域名

五泉市川東中学校区

人権課題

子供、障害者、同和問題、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認

目標・人権教育
のねらい

互いの違いを理解し、認め合うことは生きやすさにつながるとともに、中学校卒業後、より大きな集団に身を置いた際にも、自分らしく生きる自信につながると考える。現状、課題を踏まえた上で、児童生徒だけでなく、地域全体での人権意識の高揚を図るべく、小・中学校が地域、家庭を巻き込みながら人権教育を推進する。児童生徒のみならず大人も含めて、適切な人権感覚を身に付け、多様な人権に配慮しながら他者理解に努め、協働できるようになることを目指したい。

各組織の動き・役割等

人権教育総合推進会議（指導計画の整備）

五泉市教育委員会指導主事、校区内2保育園長、両校学校運営協議会推進員、両校PTA代表（会長等）、校区育成協議会会長、人権擁護委員（地区担当者）、公民館主事、両校校長及び人権教育担当者

育成協議会、人権擁護委員、公民館

運営委員会
両校校長及び人権教育担当者

両校運営協議会

かわひがし保育園
あさひ保育園

川東小学校
人権課題「障害者」について盲導犬ユーザーとの交流を通して、障害者との関わり方、見守り方を学んだ。



川東中学校
人権課題「インターネットによる人権侵害」についてSNS教育プログラムを通じて、その有効性と危険性を学んだ。

PTA
地域住民

校種間連携
の概要

- ・小中人権教育部がそれぞれの計画を見直し、小中9か年に渡る人権教育年間指導計画を作成した。
- ・両校とも2回ずつ「いじめ見逃しゼロ集会」を開催し、保護者・地域住民を招いて共に考えた。
- ・小中合同研修会を3回実施し、知見を得た。
- ・両校とも1回ずつ人権教育の授業公開を実施し、保護者・地域住民に公開した。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

地域・関係機関との連携の概要

- ・保護者・地域住民をメンバーにした推進会議を組織し、計画立案、中間報告、最終報告を実施し、指導や助言を得た。
- ・育成協議会、公民館と連携し「多様性の理解」をテーマにした講演会を実施し、両校の保護者、地域住民の参加を得た。
- ・事業の内容や成果を学校だよりや育成協だよりで地域住民に広報した。

事業成果

生徒の変容を見取るべく、全23項目に渡るアンケートを前期（7月）と後期（12月）に実施した。

< 知識的側面 >

「世界には様々な人権問題があることを知っている。」 【A8.2ポイントup】

人権をテーマとして取り組み、それぞれの授業の関連する場面で取り上げた結果と考える。

< 価値態度的側面 >

「正義を守ろうとする気持ちがある。」 【A8.1ポイントup】

「差別を許さない態度を身に付けている。」 【A9.1ポイントup】

「様々な価値観を尊重しようとする態度を身に付けている。」 【A8.2ポイントup】

それぞれの年間指導計画を見直し、9か年を見据えたものに更新し、これに沿って人権教育、同和教育を確実に実施した成果と考える。

< 技能的側面 >

「話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができた。」 【A10.9ポイントup】

「相手の立場に立って物事を考えることがある。」 【A5.8ポイントup】

全教科を通して計画的に実施した話し合い活動による成果と考える。

また、1月に保護者・地域住民にアンケートを実施したところ、以下のような結果となった。

「あなたは、人権や差別の問題に関心をもっていますか。」 【肯定的な評価が100%】

「学校の授業や取組に参加して、自らの人権意識は高まったと思いますか。」 【同 100%】

同和教育の授業を参観した保護者、地域の方から、以下のコメントをいただいた。

「このまま社会に出ても発言できる子供たちであって欲しい。」

「授業に取り組む様子を見て、人権意識が高いと思った。」

「まじめに一生懸命取り組む子供たちと先生方が素晴らしかった。」

地域との関わりを強化するため、育成協議会や公民館主事との連携を重視したが、本事業の推進を通して、地域との連携強化を図る上で欠かせない存在であることを再認識した。